

# 民報あばしり

NO.1096

2016.11.27

発行所

日本共産党  
網走市委員会  
網走市北八西三  
四三二、四四五八  
F 四三二、四四五七

## 自衛隊を南スーダンに送るな！

「戦争法」の廃止！  
「憲法改悪」許すな！



交互にマイクを握った「ストップの会」の宣伝

「ストップ戦争法網走の会」は定例の宣伝行動を、19日（土）に駒場ベータショップ店前、橋北ベータショップ店前で行いました。「手足を失うことがないよう、半年後、無事に戻ってきます。また皆さんと一緒に仕事したい」（赤旗日曜版20日号報道）と20日に南スーダンに出発した青森の第9師団の壮行会で、若い自衛官が語ったと言います。



いよいよ「戦争法」にもとづく具体化がされる重大な事態となりました。この日集まった会員や市民からも「憲法を守らず、海外へ自衛隊を派遣させるなど絶対に許されません。憲法の理念を広げる事こそ、いま必要です！」（平和憲法を守る網走の会世話人 弦巻富美恵さん）、「年金カット法案」を提出して、私たちの暮らしを壊している安倍政権は許せない。そのうえ南スーダンに自衛隊を送るなど絶対に許せない！（年金者組合支部長 小森一成さん）、「次の総選挙で、野党共闘を本気で広げ市民といっしょに戦うなら、自民党の議席を大幅に減らすことが出来ます。戦争法廃止の為に力を合わせましょう！」（共産党市議 松浦敏司さん）などのスピーチがありました。

市民からは「寒いのご苦労さま」「今忙しいのでこの次参加します」などの声がかかっています。



釣り人

## 松浦奮戦モ！



学生ローンではない、本物の奨学金制度を求めて18日、国会前で学生たちが緊急アクションを行いました。参加者は、奨学金を借りている学生らがスピーチし、「多くの学生が奨学金と言う借金に苦しんでいる」「誰もが安心して学べる制度にしてほしい」と訴えました。参加者は、「学費を下げる」「NODERB（借金）」等と書かれたプラカードでアピールし、「僕らは自由に学びたい

んだ」「返還いらない奨学金を」とコールしました。私も、毎週金曜日の朝に潮見台通り2ヶ所で街頭宣伝をしています。多くの学生たちがバスで学校に行くためバス停で待っています。何度となく奨学金制度について、「大学を卒業すると同時に数百万円の借金を抱えるのは、どれだけ大変か。返済をしなくても良い奨学金制度を」。また、「日本共産党に入党して、こんな社会を変えましょう」と訴えています。

## 街・スポットライト

市内には何カ所も「土砂災害指定区域」があります。錦町の区域では、10月12日から29年3月21日までの工期で法面（のりめん）工事が行われています。急斜面に大型重機が張り付くように設置されて、伐採された木材を吊り上げ運び出しています。担当者は「川に土砂が入らないように、そしてグループホームなど家屋があるところを優先して、工事をしています」と話し、雪の降った早朝から作業をしていました。



木材を吊りだす重機

## お知らせ

- ◎全日本年金者組合 網走支部は「年金者の生活を守れ」と楽しみを持ちながら活動しています。  
11月27日（日）10時から年金事務所（駒場南4-4）で「介護問題学習会」を開催します。
- ◎日本共産党 北地域支部は29日（火）13時30分からエコーセンター3階会議室  
「つどい：医療・介護制度の改悪」を開催します。お気軽にどなたでも参加できます。

## 流氷

▼朝ドラの「とと姉ちゃん」が大好評のうちに終わった。花森安治（故人）初代編集長は「僕のペンで力当たり前の暮らしを守る」をモットーに大橋鎮子（故人）とともに『暮らしの手帳』を発行した。それは今も発行し続けている。読者の一人としてとても嬉しい。▼なかでも「戦争中の暮らしの記録」は1966年に全国の読者に呼びかけて1700通にも及ぶ応募記録を1967年に全部を網羅した本である。いまもロングセラーで発行されている。今、読み返してみても貴重な記録と庶民一人ひとりの戦争の恐ろしさ、怒りの声が聞こえてくるようである。今までの教育が全部ウソであったのか？という事も：▼今も戦争政策を第1にしている安倍首相とそれに近づいている政党的数の力で、あらゆる悪法を通したり、通そうとしている。国民の声を聞く耳はついていないし、理解するだけの頭もないのだからと思う。でも毎日平和で暮らしたい。憲法9条のある中で守られてきた戦後70年の日本。▼世界中がどんどん原水爆禁止へと動く中、日本政府が反対する愚かさ。50年以上前から「原水爆反対」の署名運動がようやく実を結ぼうとしている時に、情けない限りの自公政権である。国民生活を守り、平和を守る憲法を守ってこそ人間らしい暮らしが出来ると思う。▼政策の一致点に野党の大同団結が政治の春を呼び込んでくれる。まずはしっかり学習し、政治のウソを見抜く頭を、もうボケてはいられない。